

POINT 3 防災気象情報などの収集

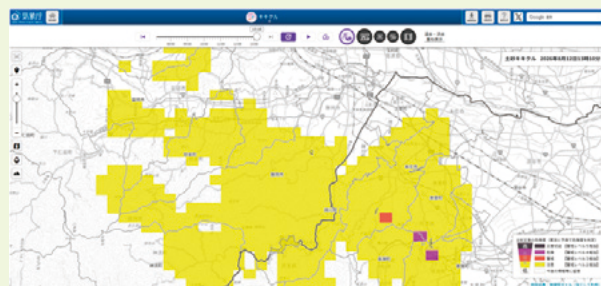
強い雨が降ってきたときなどに、土砂災害や浸水害の危険度が高まっている場所を気象庁の「キキクル」や県の「かわみるぐんま」で確認することができます。



キキクル



かわみるぐんま



(例) 土砂災害危険度の情報 (キキクル)

POINT 4 避難場所や避難方法の把握

発生する災害の種類によっては立ち退き避難が必要な場合があります。市が指定する避難場所・避難所や安全な場所にある親戚・知人宅へ避難しましょう。なお、ハザードマップで自宅が浸水想定区域や土砂災害(特別)警戒区域に該当しない場合は、無理に移動せず自宅にとどまることも考えてみましょう。

POINT 5 防災気象情報と住民がとるべき行動

気象庁では防災気象情報の名称などを見直し、今年の5月29日から警戒レベルとの整合が図られた新しい防災気象情報の運用を開始しました。市から避難情報が発令されたときの行動について確認しましょう。

5段階の警戒レベルと防災気象情報				
気象状況	気象庁等の情報		市町村の対応	住民がとるべき行動
災害の切迫・発生	キキクル 災害切迫	河川氾濫、大雨、土砂災害、高潮 レベル5特別警報 (警戒レベル5相当情報)	緊急安全確保 ※必ず発令される情報ではない	命の危険 直ちに安全確保! ・すでに安全な避難ができず、命が危険な状況。いまだ場所よりも安全な場所へ直ちに移動等する。
2時間～0.5時間程度前	危険	レベル4危険警報 (警戒レベル4相当情報)	避難指示 第4次防災体制 (災害対策本部設置)	危険な場所から全員避難 ・台風などにより暴風が予想される場合は、暴風が吹き始める前に避難を完了しておく。
数時間～3時間程度前	警戒	レベル3警報 (警戒レベル3相当情報)	高齢者等避難 第3次防災体制 (避難指示の発令を判断できる体制)	危険な場所から高齢者等は避難 ・高齢者等以外の人も必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、自主的に避難する。
半日～数時間前	注意	レベル2注意報 (警戒レベル2)	第2次防災体制 (高齢者等避難の発令を判断できる体制)	自らの避難行動を確認 ・ハザードマップ等により、自宅等の災害リスクを再確認するとともに、避難情報の把握手段を再確認するなど。
数日～約1日前		早期注意情報 (警戒レベル1)	第1次防災体制 (連絡要員を配置)	
			心構えを一段高める ・職員の連絡体制を確認	災害への心構えを高める

出典：気象庁(内閣府が作成した「避難情報に関するガイドライン」に基づき作成)

CHECK! 備蓄品の状況

市では、アルファ化米・保存水・パーテーション(テント)・簡易ベッド・簡易トイレなどの備蓄を行っています。しかし、数に限りがあるため、各家庭でも非常時の持ち出し品をリュックサックなどにまとめ、すぐに取り出せる場所に保管しておきましょう。

9月1日は 防災の日

～災害時の情報収集はどこでする～

問い合わせ 地域安全課(☎27444)

防災の日は、関東大震災(大正12年9月1日発災)に由来し制定されました。近年は、東日本大震災や令和6年能登半島地震、令和8年熊本地震などの大きな地震が発生しているほか、異常気象による大規模な水害も発生しています。今一度身の回りの防災対策を見直してみましょう。

1 地震への備え

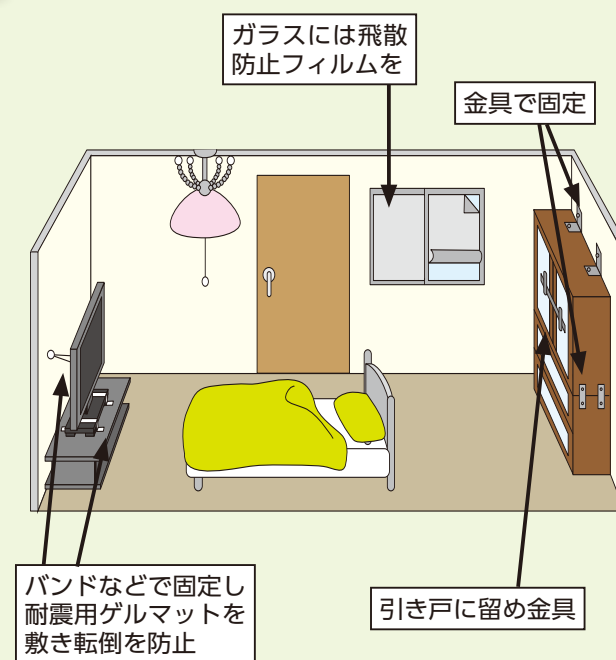
防災は、一人一人が自分の身を守る「自助」が基本となります。地震が発生したとき、どのように行動すれば身の安全を守れるかを知っておきましょう。平常時から、家の中での安全対策や家庭内備蓄を進めることで家族の身を守ることに繋がります。

屋内での安全対策

- ▷家具の転倒防止のため、「L字金具」や「滑り止めシート」で固定する
- ▷家具などの上に物を置かない
- ▷ガラスの飛び散りを「飛散防止フィルム」などで防止する

地震発生時は次の物には近づかない

- ▷ブロック塀、自動販売機など倒れそうな物
- ▷看板やビル、住宅といった建物のガラス



2 風水害への備え

近年、梅雨前線の活発化や台風の接近・上陸、集中豪雨の発生により水害が多発しています。被害に備えるための方法を身に付けましょう。

POINT 1 避難情報や気象情報の確認

ふじおかほっとメール・市LINE公式アカウントでは、市からの避難情報や気象情報などをリアルタイムで配信します。また、大雨・洪水などの各種注意報・警報はテレビ・ラジオでも流れるため、見落とさないように注意しましょう。

POINT 2 大雨や台風に向けて家の周りの確認

家の周りに吹き飛ばされそうな物はないか、雨戸や瓦、雨どいなどは痛んでいないかを確認しておきましょう。また、排水溝が詰まっていないかなどの確認も必要です。普段からの確認と整備が、被害を最小限に食い止めることに繋がります。